

## 坪田さん

バイトの坪田さん

店長の玉さん

バイトの寺田さん

店長、板付き

照明、全体

店長、ちよつと困った感じで、落ち着かなく、舞台上をうろろ

店長

言い辛いわ。

何か微妙な感じなんだよな

どんな感じで言えば良いんだろうな。

まあ、びしつと言うしかないよな。

袖から、坪田の鼻唄が聞こえる

店長

でかいな。

坪田、入場

坪田

あ、店長。

お疲れ様です。

店長

あ、お疲れ。

ノリノリだったね。

坪田

すみません。

仕事前に気持ち高めようと思つて。

店長

そうなんだ。

でも、店の中に聞こえそうだから、もう少し、ボリューム落としたほうが良いと思う。

坪田

はい。あ、いや、はくくくい。

店長

最初の方の返事で良いよ。

何で、むかつく言い方に、良い直したの。

坪田

すみません。

でも、珍しいですね。

この時間に店長が店にいるの。

店長

まあ、ちよつと色々あつてね。

坪田

ああ、奥さんが不倫してるんですね。

店長

してないよ。

何なんだよ、その適当な情報は。  
芸能ニュース見すぎだよ。

坪田、いやな顔でどや感

店長 何なんだよ、その俺は知ってますよみたいな顔は。  
してないよ。うちの奥さんは不倫してないよ。  
お前のごとだよ。  
色々あるつてのは、坪田君のごとだよ。

坪田 え、私ですか。

店長 そう。

::

坪田君さ、俺に何か言うことない。

坪田 ::ないです。

店長 あるんだよ。  
言うことない。つて聞いている時点であるんだよ。  
何、自信満々に「ない」つて言ってるの。

坪田 ::

店長 あるの。

坪田 はい。あ、いや、はくくくい。

店長 その返事やめろ。

坪田 あ、あれですか。

私の方が年上なのにもかかわらず、店長が私のことを、坪田君と、君付けで呼ぶことですか。

店長 不満なのか。

今はお前の不満を言うタイミングじゃないんだよ。

言わせてもらえば、お前みたいなのに、なめられないように、敢えてそうしてるんだよ。  
敢えてね。

分かるかい、坪田君。

坪田 はくくくい。

店長 なめてんだろ、俺のごと。

坪田 なめてませくくくん。

店長 語尾に余裕をもたすな。

まあ、良い。

そういうことじゃないんだ。

店の中だよ。店出てるときに、坪田君何してる。

坪田 ::!!

あれですか。

顔にワセリン塗ってることですか。

店長 何してんだよ。

何で、顔ヲカテカにして売り場出てんだよ。  
しかも初耳だよ。想定外の情報入っちゃったよ。  
何で。何でワセリン塗って、店でてんの。

坪田 実は、∴理由はないです。

店長 あれよ。せめて理由あれよ。

テカテカの店員がいるんだから、その理由はあつてくれよ。

坪田 全く。

店長 わかったよ。

もう良いよ。

理由なくても良いから、もう、ワセリン塗って、店出ないでくれ。

坪田 はくくくい。

店長 返事。

坪田、誰かを指さす

店長 お前だよ。一応、ここには一人しかいないんだよ。

お前、クビにするぞ。

坪田 そんな。

クビだけは。

別にこの安い給料が入らなくても、全然困らない位、家は金持ちだけど、クビは困ります。家、めっちゃ金持ちだけど、困ります。

店長 困ってねえたら。

何なんだよ、むかつくな。

坪田 クビだけは。クビだけは。お金はあるけど、クビだけはく。

店長 分かった。分かったから。

坪田 直します。

店長の言う通りにします。

だから、クビだけは。

店長 分かったから。

クビにしないから。

でも、これから言うことは、やめて欲しいことだし、一度とやっちゃいけないから。

坪田 はくくくい。

店長 もう良いよ、その返事で。

じゃあ、言うよ。

坪田君、君、お客さんや、回條に、聲売らうとしてるんだって。

坪田 はい。

店長 なんだよ、その返事。

もう少し、やばい的な感じ出せよ。

何、当たり前でしょ。的な鬱囲気出してんだよ。

坪田 駄目ですか。

店長 駄目だよ。当たり前だろ。  
そういう勧誘的なことは駄目に決まってるだろ。  
坪田 別に僕はそんな気持ちは。  
店長 じゃあ、どんな気持ちで売ってるの。  
坪田 みんなに幸せになつてもらおうと思つて。  
店長 まんまじゃないかよ。理由が怪し過ぎるだろ。  
坪田 店長も買いますか。  
店長 買わないよ。

寺田、登場

寺田 店長、坪田さんを責めないでください。  
店長 ……  
坪田 寺田さん。  
店長 誰だよ、お前。  
寺田 寺田です。  
店長 知らないよ。  
坪田 あ、僕が、一週間前に雇つた、新しいバイトです。  
店長 何勝手に雇つてんだよ。  
お前にそんな権利ないよ。  
坪田 やる気あつたんで。  
寺田 やる気あります。  
店長 そういう問題じゃないだろ。  
給料とかどうしてるんだよ。  
坪田 シジからとつぱらいで。  
店長 何してんだよ、お前。  
寺田 店長、聞いてください。  
店長 お前が、俺のことを店長と呼ぶな。  
雇つた覚えはないんだから。  
寺田 この前、私は、店まで歩いてくる途中、犬にめちやめちや吠えられたんです。  
私は突然のことで、「わっ」つて驚いたんですが、ゆつくりとそのワンちゃんに、よしよしして近づいて行ったら、尻尾振つて、すごい仲良くなつたんです。  
店長 ……  
何の話。  
坪田 壺の話です。  
店長 犬の話だよ。  
寺田 店長、聞いてください。  
店長 なんだよ。  
寺田 この前、私は、店から家に帰る途中、ひたたくりにあつたおぼさんを見ました。私は突然のことで、「わっ」つて驚いたんですが、そのひたたくりは転んで、周りの人に取り押

店長 さえられたんです。  
店長 ∴  
店長 だから何の話だよ。  
坪田 壺の話です。  
店長 ひつたくりの話だよ。  
寺田 店長、聞いてください。  
店長 やだよ。  
店長 何なんだよ。お前は何なんだよ。  
坪田 店長も壺を買いますか。  
店長 やだよ。  
店長 ちなみにいくらだよ。  
寺田 3万円です。  
店長 すぐに払えそうな額に設定するなよ。  
店長 買っちゃいそうだよ。  
寺田 現状、月の売り上げは、店より上です。  
店長 そんな売れてんの。  
店長 まあ、とにかく、駄目だから、一度と壺売っちゃ駄目だから。  
坪田 店長も買いませんか。  
店長 買わないって。  
寺田 買った方が良くと思います。  
店長 やだよ。

坪田、寺田、顔を見合わせる

店長 なんだよ。

坪田、寺田、顔を見合わせる

店長 なんだよ。何か言えよ。

坪田、寺田、顔を見合わせる

店長 売ってくれ。いや、売ってください。

照明、暗転

## おちよぼ口

ハジメ  
中津  
寺田  
清水先輩

ハジメ、板付き

ハジメ 中津に会うの久々だな。  
あいつ、友達できたかな。  
あいつ、人見知りだからな。  
友達出来て、上手くやつてりやいいけどな。  
遅いな。

中津、おちよぼ口で、可愛らしく登場

中津 よ。

ハジメ おう。

中津 久しぶり。

ハジメ 久しぶり。  
元気だった。

中津 元気、元気。

ハジメ 本当か。

中津 本当、本当。

すごい元気。

日々楽しい。

ハジメ え、マジで。

予想外。

中津 でしょ。

お前、俺、友達もできずに、可哀想な日々送ってると思ってたでしょ。

ハジメ 思ってた、思ってた。

中津 残念。

友達とか、先輩とか、すげえ楽しんでる。

ハジメ え、何、先輩って何。

サークルとか入ったの。

中津 サークルの先輩、めっちゃ良い人たちで、超楽しい。

ハジメ マジか。

中津 で、悪いんだけど、今日、サークルの飲み会あって、で、俺の友達が今日、こっち来る

つて言ったら、先輩、興味持っちゃって、ここに来るつて言ってるんだけど、良いよね。

ハジメ 良いけど。  
俺は大丈夫だよ。  
だって、俺は社交的じゃん。

中津 あゝ、良かった。

ハジメ まあ、それは良いんだけど、何個か、気になってる点があるんだけど、聞いて良い。

中津 もちろん。

ハジメ あのさ、何のサークル入ったの。  
後、さつきから気になってるんだけど、その口なんなの。  
めっちゃ気になるんだけど。

中津 ああ、これ。  
俺さ、おちよぼ口サークルに入ってたんだ。

ハジメ おちよぼ口サークル。  
何それ。

中津 先輩たち、めっちゃ良い人。

ハジメ いやいや、何それ。  
おちよぼ口サークルつて何。  
全員、おちよぼ口なの。

中津 おちよぼ口にすると、人に優しくなれる。

ハジメ 分かんないけど。

中津 先輩たち、めっちゃ優しい。

ハジメ 本当意味わかんないぞ。

中津 あ、先輩来た。  
先輩、こっちです。

寺田、おちよぼ口で登場

中津 お疲れさまです。

寺田 お疲れ。

ハジメ あ、どうも、こんにちは。

寺田 中津の高校の時の友達の、

ハジメ あ、ハジメつて言います。

寺田 寺田です。  
よろしくです。

ハジメ あ、よろしく申し上げます。  
えっと、おちよぼ口サークルの先輩なんですか。

寺田 そう。  
あ、中津から聞いた。

ハジメ ちらつとは。

寺田 中津、イエー。

中津 イエ。

寺田、中津、ハイタッチ。

ハジメ 駄目だ、付いていけない。  
なんで、ハイタッチしたの。

中津 あ、そうだ。  
ハジメもおちよぼ口サークル入る。

ハジメ いや、入んないけど。

寺田 入っちゃいなよ、入っちゃいなよ。

ハジメ いや、良いつす。  
え、何なんですか、おちよぼ口サークルつて。

寺田 おちよぼ口サークルつてのはさ、みんなして、おちよぼ口になろうつていうサークル。

ハジメ そのままなの。  
おちよぼ口になつてどうするの。

寺田 私がおちよぼ口になれば、中津もおちよぼ口になつて、君もおちよぼ口になつて、全世界がおちよぼ口になる。

中津 ラブ・アンド・ピース。

ハジメ 気持ち悪いよ。  
あと、先輩、おちよぼ口、くたくそですよ。

寺田 …

中津、ハジメの胸倉をつかむ

中津 ハジメ。

ハジメ 悪かった。悪かった。

中津、芝居つぼく

中津 俺さ。  
お前が思ってる様に、大学入つて、孤独だったんだ。  
人見知りだし、知らない場所で、誰とも話すことができなくてさ。  
さびしかった。

そんな時、キャンパスにおちよぼ口の軍団を見つけて

ハジメ 気持ち悪いつて思わなかったの。

中津 最初は何してるんだろつて思ったけど。

ハジメ 思うよな。

中津 その中の一人と目があつて、

寺田 私ね。

ハジメ そうなんですか。



中津 その人が俺の方に優しく歩み寄ってきて、優しく語りかけてくれたんだ。  
寺田 一緒に来る。  
ハジメ 怖いよ。  
中津 気付いたら、俺もおちよぼ口だった。  
ハジメ 何で。  
中津 おちよぼ口になった途端、世界が広がったよ。  
ハジメ 分かんない。  
中津 みんな知らない人ばかりなんだけど、自然と笑顔になれて、  
気付いたら、僕もすっかり、おちよぼ口サークルの一員ぞ。  
寺田 おちよぼ口は、  
中津 ラブ・アンド・ピース。  
寺田 イエ〜イ。  
中津 イエ〜イ。

寺田、中津、ハイタッチ。

ハジメ こういう大学生が、日本を駄目にしていくんだと思うよ。  
寺田 気付いてる、ハジメ。  
ハジメ いきなり呼び捨てかよ。  
寺田 ハジメも少し、おちよぼ口になってきてるつて。  
ハジメ …!!  
なつてない。なつてない。そんなことありえない。  
中津 ハジメ、お前も来いよ。  
寺田 来いよ。  
ハジメ 違う、違う。  
俺は違うから。  
寺田 あ、清水さんだ。  
中津 清水さん。  
ハジメ 誰だよ、清水さんつて。  
中津 サークルの代表だよ。  
寺田 最高のおちよぼ口。  
中津 マスター・オブ・おちよぼ口。

清水、登場

おちよぼ口というよりは、タコ。

清水 ち〜す。  
寺田 おはようございます。  
中津 おはようございます。  
ハジメ タコじゃん。

もはや、おちよぼ口でも何でもなし、タコじやん。  
手のくねくねとか、完全にそっち意識してるじやん。  
清水 君が、中津の友達、ハジメにゆつ。  
ハジメ にゆつてなんだよ。  
完全にタコっぽい感じを認識してるでしょ。  
清水 俺は、中津の先輩で、おちよぼ口サークルの代表、清水にゆつ。  
ハジメ タコサークルでしょ。  
清水 特技は、毒霧。  
ハジメ 墨でしょ。  
清水 イエ〜イ。  
寺田 イエ〜イ。  
中津 イエ〜イ。  
清水 ラブ  
寺田 アンド  
中津 ピース  
清水 ハジメ、飲みに行こうぜ。  
サークルの皆が待ってる。  
ハジメ 俺良いつす。マジで遠慮します。  
中津 何で。  
ハジメ 悪い、本当無理。  
楽しんできて。  
清水 この先のオクトパスって飲み屋にいるから、気が変わったら来なよ。  
ハジメ やつぱりタコじやん。  
清水 さ、行こうぜ。  
寺田 はい。  
中津 はい。

### 3 人退場

ハジメ 大丈夫か、あいつ。  
あいつも数年後、タコになってんのかな。  
!?  
俺も、おちよぼ口になってる。  
やつぱり飲みに合流しようかな。

照明、暗転

# イツツ・ア・スモールワールド

ハジメ  
ナカツ  
テラダ  
ツカサ

照明、全体  
舞台上、下手にマイク

3人登場

テラダ 本当に大丈夫かな。  
ハジメ 大丈夫だって。  
ナカツ さすがにおかしいと思うんじゃない。  
ハジメ 大丈夫だって。  
ツカサは、本当に正直な奴だから、絶対、信じるから。  
テラダ そうかな。  
ハジメ ほら、そこ置けつて。

ハジメ、ナカツ、テラダ、小さな人形を、上手の方に置く  
3人、マイクの前にスタンバイ

ツカサ、入場音楽

ハジメ 来た来た。

ツカサ、純朴に登場

ハジメ よし、やるぞ。  
テラダ 本当に大丈夫。  
ハジメ 行くぞ。  
ハジメ ツカサ〜。  
ツカサ ……  
テラダ ツカサ君〜。  
ツカサ ……  
ナカツ ツカサ〜  
ツカサ ……

ハジメ ほら、反応してる。

ツカサ、立ち去ろうとする

ハジメ ツカサく。

ツカサ …

テラダ ツカサ君く。

ツカサ …

ナカツ ツカサく。

ツカサ …

ツカサ 呼ばれてる。

はい。

ハジメ 返事した。

テラダ 良い子だ。

ナカツ しかも、すごい良い顔してる。

ハジメ ツカサく。

ツカサ はい。

テラダ ツカサ君く。

ツカサ はい。

ナカツ ツカサく。

ツカサ はい。

ツカサ ハジメ君とテラダさんと、山田君の音がする。

ナカツ だよ。

ツカサ ナカツ君か。

うん、みんなどこにいるの。

ツカサ、自分の後方を探す

犬が自分の尻尾を追いかけてる感じ

テラダ 何してるの。

ハジメ 多分、俺たちを探してるんだと思う。

ナカツ どういうこと。

ハジメ 自分の後ろにいると思ってるんじゃないかな。

ハジメ こつちだよ。こつち。

ツカサ …

どこですか。

ハジメ こっち、こっち。

テラダ ツカサ君の…… ※その時の、清水の位置と人形の位置を見て、誘導してください

ナカツ 踏む、踏む、踏む。

下にいるよ。

ツカサ ……

テラダ めっちや驚いてる。

ハジメ だろ。

ナカツ 信じてるよ。

ハジメ ツカサ君は正直な奴だから。

ツカサ、パニックになる

テラダ パニックになってるよ。

ハジメ 大丈夫。

ツカサ、その辺から右を持ってきて、人形をつぶそうとする

ナカツ ヤバイヤバイ。

やめて。やめて。

ハジメ ツカサ、何するんだよ。

ツカサ、落ち着けて。

ツカサ ……

ハジメ 落ち着いた。

ツカサ はい。

ハジメ 信じてるだろ。

テラダ ちよつと可哀想な感じがする。

ナカツ 何か言おうとしている。

ツカサ みんな、ごめんなさい。

僕、大きくなったみたいだ。

ハジメ 逆行った。

ハジメ 違っよ、違っよ。

ツカサが大きくなったんじゃない、俺たちが小さくなったんだよ。

ツカサ ……

テラダ めっちや驚いてる。

ツカサ、切腹しようとする

ハジメ

待つて待つて。

どうしたの。

ツカサ

切腹しようと思つて。

ハジメ

何で。

ツカサ

自分だけ、元のサイズでいることにふがいなさを感じて。

ハジメ

感じなくて良いから。

ツカサ

…

テラダ

それより、ツカサ君、何でそんなもの持つてるの。

ツカサ

いついかなる時でも、懐に刃を忍ばせてる位で生きると、おじいさんに教わりました。

テラダ

駄目だよ。

それは気持ちの問題で、そういうものを持ち歩いていると、おまわりさんに捕まっちゃうよ。

ツカサ

…

ナカツ

捨てた方が良いよ。

ツカサ、パニックになって、刀を投げ捨てる

その後、落ち着かない様子で、キョロキョロして

何かを思いついたかのように、人形に触ろうとする

テラダ

触っちゃ駄目。

ツカサ

…

テラダ

触っちゃ駄目。

ツカサ

はい。

ツカサ

みんなは、何で小さくなってしまったの。

ハジメ

話せば長くなるんだけど、聞く。

ツカサ

聞かない。

テラダ

ツカサ君っぽい。

ナカツ

自分は長々と話すのに、人の話聞かないもんな。

ツカサ、人形の周りをうろろし、何かに納得し

ツカサ

じゃあ、僕はこれで。

テラダ

帰るの。

ナカツ

受け止めて、この状況に興味無くしたのか。

ハジメ

待つて、待つて。

ツカサ

何。

ハジメ ツカサ君、帰っちゃうの。  
ツカサ そうだね。  
ハジメ 僕たちと遊ぼうよ。  
ツカサ サイズが違うから無理。  
僕たちが、仮に一緒に遊んだとして、かくれんぼだと、みんなが小さ過ぎて、見つからなくなりそうだし、鬼ごっこだったら、歩幅が違い過ぎて、すぐ捕まえちゃう。  
テラダ 冷静だ。  
ツカサ ゲームして遊ぶにしても、みんなのサイズにあうハードを、僕は知らないから。トータル的に考えて、一緒に遊ぶのは無理。  
ナカツ 結構、長々と話したな。  
ツカサ そういえば、みんなはどうかやって家に帰るんだい。  
みんなのサイズで、家まで歩いてたら、真夜中になっちゃうよ。  
送っていいか。

ツカサ、人形に触ろうとする

テラダ 触っちゃ駄目。  
ツカサ ……  
でも、触らないと、みんなを家に送れないよ。  
テラダ エッチ。  
ツカサ ええ。  
テラダ ツカサ君のエッチ。  
ツカサ ええ。  
テラダ もう駄目だよ。本当のこと話そう。  
ナカツ そうだよ。  
ツカサ、パニックになってるよ。  
ハジメ そうだな。

3人 ツカサの傍に行く

ハジメ じゃじゃ〜ん。  
ツカサ ……  
ハジメ 驚かしてごめんな。  
もう大丈夫だから。  
テラダ ツカサ君、ごめんね。  
ナカツ ツカサ、ごめんな。  
ツカサ 服が違う。  
ハジメ そっちなかよ。

照明、暗転

了